

海況速報

平成 17 年度 第 6 号 (通算 No.108)
平成 18 年 3 月 16 日
北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

1 月下旬から 2 月下旬の海況

2 月は時化が多く、日本海側は十分な観測ができませんでした。このため日本海海域は 3 つに分けて水温分布図を作成しています。

日本海海域

水温低い

荒天のため道西日本海沖合域の観測が十分に出来ませんでした。津軽海峡西方に冷水域があり (100m で 5 以下) 対馬暖流はこの冷水域より西側を北上しています。檜山沿岸ではスケトウダラ調査でかなり詳しく海洋観測が行われました。そこでは沖の奥尻島側 100m 層で 6 台の水温となっていますが、檜山沿岸側では 100m 層で 3 以下の水温となっており、流れが奥尻海峡の北側から南に向かって流れる水温構造となっています。石狩湾では湾奥部の表面水温が 2 以下となっています。日本海北部の稚内西方海域では、オホーツク海の影響を受けた表面水温が 1 以下の海域が利尻礼文島付近まで広がっています。水温についてみると (水温偏差表参照) 水温の低いところが多くなっています。

余市における 1 月上旬以降 2 月下旬までの沿岸水温 (旬平均) は、1 月中旬まで「平年並み」でしたが、その後 2 月中旬まで低水温で推移し、2 月中旬には平年より 1.5 低い 3.9 となり、水温偏差比による水温評価で「非常に低い」となりました。2001 年の冬以来、水温の低い冬となっています。

道東太平洋海域

暖水の腕

衛星画像を見ると、42-00N、146-00E 付近に暖水塊があるようです。145-00E に沿って南から北へこの暖水塊に向かって、42-00N まで暖水が伸びています (例えば 100m 層で 5 以上)。道東沿岸はこの暖水の影響のため、親潮 (例えば 100m 層 2 以下の海域) におおわれている海域が昨年 2005 年 2 月より狭くなっています。一方、表面水温で 0 以下の沿岸親潮は道東沿岸を襟裳岬南方まで広がっています。水温についてみると (水温偏差表参照) 平年並みのところが多くなっています。

道南太平洋海域

沿岸モード

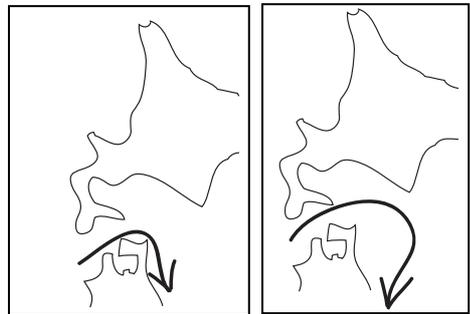
津軽暖流は沿岸モード (*2) になっています。襟裳岬南西では、200m 層水温で 6 以上の津軽暖流の渦モード起源の暖水が見えています。苫小牧南方沖や恵山岬東方沖には表面水温で 2 以下の沿岸親潮 (*1) が見えています。噴火湾中央部では 50m 層まで 3 以下となっていますが、沿岸親潮は噴火湾へは本格的に流入していないようです。水温についてみると (水温偏差表参照) 白老沖観測線の噴火湾口部から恵山岬までの海域で (P61 ~ P64) 水温が高くなっています。

オホーツク海海域

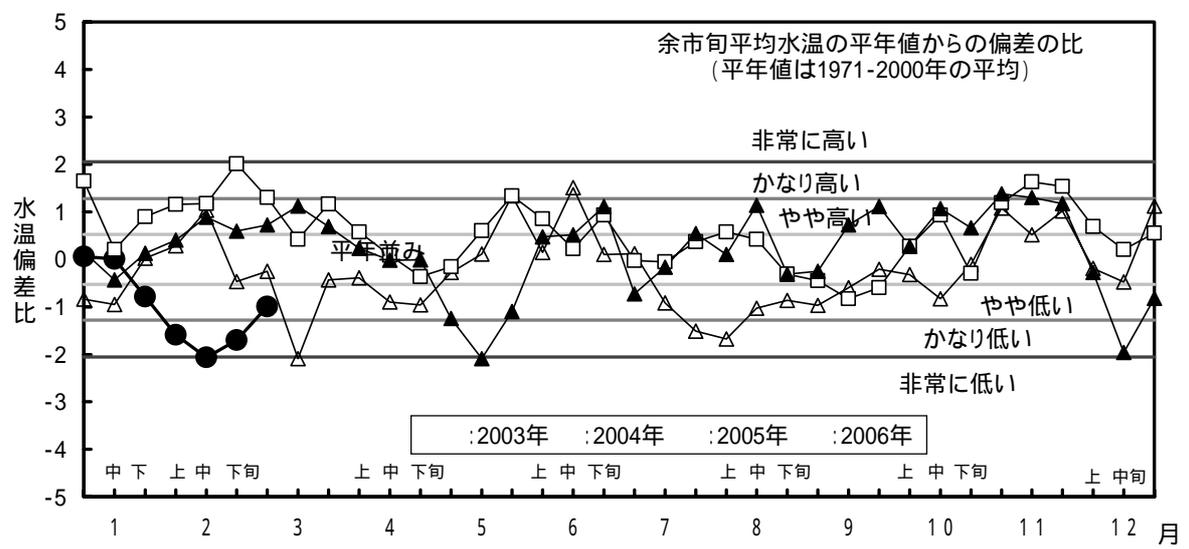
海氷のため観測はありません。

資料	観測期間	観測海域
青森水セ（東奥丸）	2006/1/31-2/1	（東北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	2006/2/6-2/8	（道西日本海海域）
釧路水試（北辰丸）	2006/2/20-2/23	（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	2006/2/7-2/8	（道南日本海檜山海域）
函館水試（金星丸）	2006/2/20-2/23	（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	2005/2/6-2/7	（津軽海峡西方海域）
中央水試（おやしお丸）	2006/2/20-2/21	（石狩湾周辺海域）

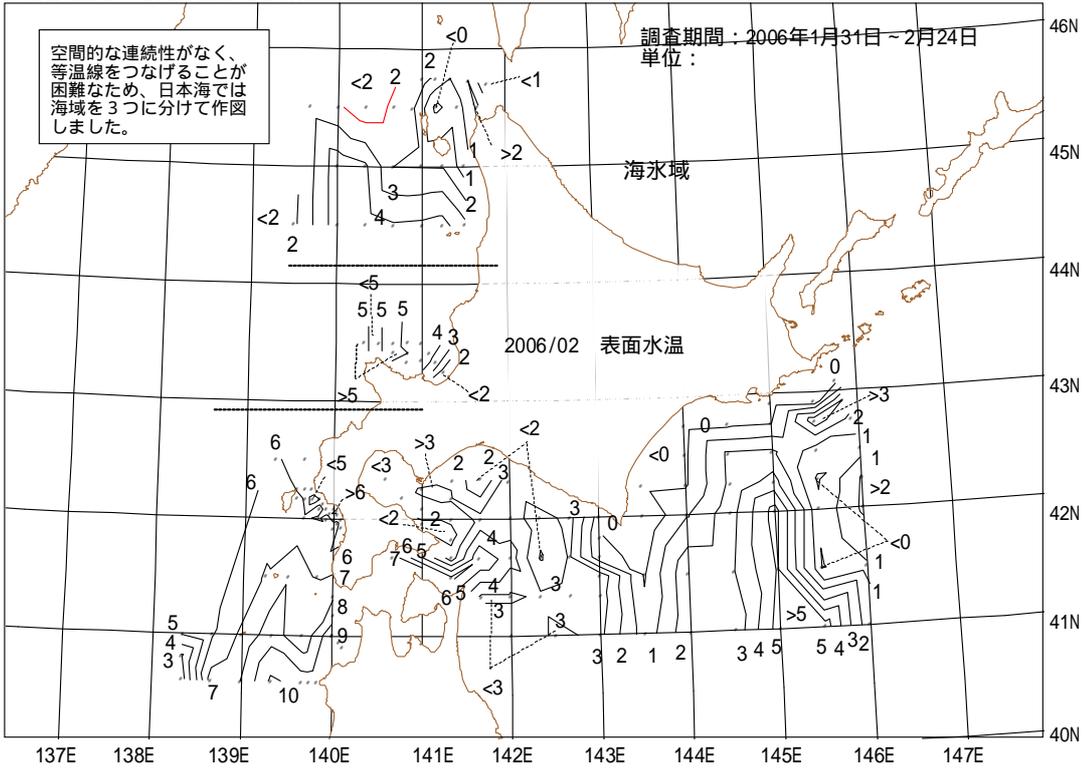
- * 1：オホーツク海の海水の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。
- * 2：津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋埼からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。



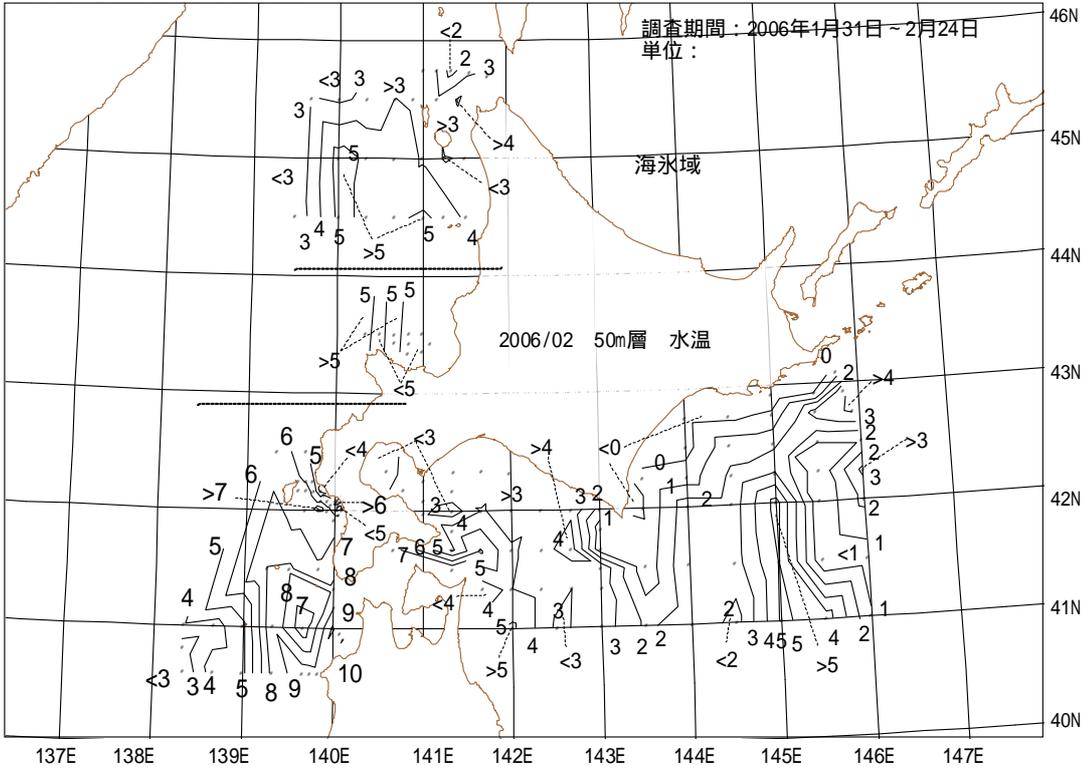
沿岸モード 渦モード



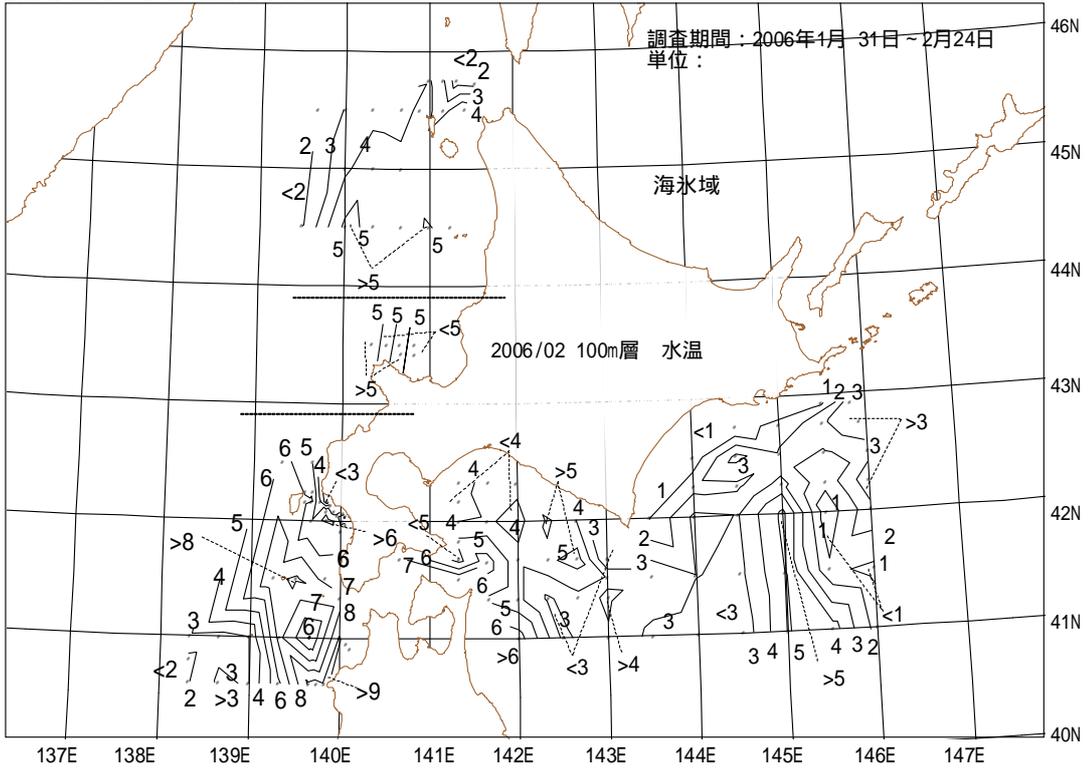
北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報

